今月の ブックトーク

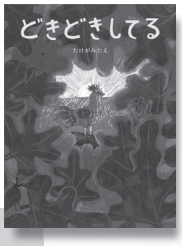
2月号「ドキドキしています」

鈴木千尋／和光小学校学校司書

もうすぐバレンタインデー。チョコをあげたりもらったりする人もいるかもしれません。友だちにあげる「友チョコ」が最近は多いみたいですが、気になるあの子にあげる、なんて人はドキドキですね。でも、もらう方だってドキドキなんです。

森 絵都・文
武田美穂・絵
童心社

『にんきもののひけつ』の主人公けいたは、1つだけチョコをもらいました。クラスの人気者、こまつくんは27個もらったのに…。この違いは何か探るため、けいたはこまつくんの観察を始めます。そして彼の意外なにんきもののひけつを知ることに!? ちょっと笑ってしまう結末ですよ。この本は4冊シリーズで、こまつくんが主人公の話、けいたにチョコをくれた女の子の話、こまつくんを好きな女の子の話もあります。ちょっぴりドキドキで、男の子が読んでも女の子が読んでもどれも楽しいお話です。



たけがみたえ・作
偕成社

ドキドキするのは好きな人がいる時だけではありません。『どきどきしてる』という絵本には、いろいろな生き物が、様々な理由でドキドキしている場面が出てきます。にわとりは朝一番に大きな声を出してどきどき、さなぎはもうすぐちょうになりそうでどきどき。犬は走って、しまうまはライオンの気配を感じて、それぞれどきどき。どきどきは、生きている証拠なのです。みなさんはなににどきどきしているでしょうか。

『アリーチェと魔法の書』のアリーチェは13歳の誕生日に、ある手紙をもらいドキドキが止まらなくなります。魔法の呪文を記した本を守る「守り手」をしているアリーチェの家には、夜になると魔法使いがそれを読みにやってきます。魔法使いに憧れるアリーチェは13歳になったら祖母の後継者として守り手になる決意をしました。ところが儀式が行われるその日、予言者からの手紙をもらいます。「危険が迫っている」「嵐とともに四つの名を持つ魔女をたずねよ」などと書かれていました。誰にも話せず、そのまま大勢の魔法使いに見守られて儀式は始まり、アリーチェは震えが止まりません。見えてはいけないものが、しっかりと見えてしまったからです。さらに世界で1冊の魔法の書をバラバラに壊してしまい…?トラブル続きでアリーチェとともにハラハラドキドキ、ぐんぐん引き込まれるお話です。

長谷川まりる・作
松井あやか・絵
静山社

ドキドキといえば、怖い話！という人は『怪談』はいかがでしょう。今ドラマでもやっている小泉八雲作の怪談が10話入っています。八雲はラフカディオ・ハーンというアイルランド人ですが、妻の小泉セツから聞いた怪談を英語で再話しました。「雪女」「ろくろ首」「耳なし芳一」などは聞いたことがある人もいるかもしれません。芳一は亡者に連れ去られそうになり、体中にお経を書いてもらいます。夜中、亡者に呼ばれ続けますが身動きせず座禅を続けました。芳一は自分の心臓の音でたおれてしまいそうになります。さて、無事に朝を迎えられるのでしょうか。他の話も怖く不思議で、美しくもあります。みなさんも、このドキドキを味わってみてください。

小泉八雲・作
小宮 由・選・訳
アノニマ・スタジオ

※「今月のブックトーク」「図書館のこよみ」は、全国学校図書館協議会Webサイトに掲載しています。QRコードより、PDFもご活用ください。